

糸島市商工会 経営発達支援計画

平成 30 年度 事業評価報告書

当会は平成 28 年 4 月に経済産業省より経営発達支援計画の認定を受けました。本報告書は、経営発達支援計画に基づき実施した平成 30 年度の事業内容とその評価、および次年度に向けた改善事項を報告するものです。

■経営発達支援計画とは

小規模事業者の持続的発展と地域活性化のために、商工会が作成する支援計画を経済産業省が認定する制度。

■当会が策定した経営発達支援計画の概要

実施期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日
計画の概要と目標	小規模事業者の持続的経営の発達を図るため、以下の支援内容を目標とする
	(1) 地域における経済動向調査や小規模事業者の経営状況・需要動向調査を行い、外部有識者による専門的な分析によって支援事業者の課題を明確化する
	(2) 売上や利益の伸び悩みで経営環境が悪化している事業者や、後継者対策に悩む事業者に対し、新たな需要の開拓に向けた事業計画策定・実施支援とセミナーなどの講習会を開催し、売上・利益の増加に直結する各種支援策を講じるとともに伴走型の支援を実施する
	(3) 販路拡大に向けた展示会・商談会などへの出展支援及び、SNS の活用や PR による知名度向上のための広報活動を支援する
	(4) 地域の特性・強みを活かした観光産業の育成を視野に新たな商品開発支援や、市内消費の拡大と観光客の取り込みを図るため、関係団体・支援機関との連携を強化し、商品券の有効活用や各種イベントの支援を図る

※詳細な内容は https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/shokibo/nintei_download/40-38.pdf よりダウンロードできます

■実施結果の報告

本発達支援計画を円滑に進めるため、当会では「需要動向・経営分析」「創業・販路開拓」「事業計画策定・実施支援」「地域活性・支援力向上」の4つのチームを作り業務運営を行いました。チーム毎に複数の目標値を設定し、進捗状況を管理しています。

目標値は項目毎に判定基準を設け、定量的・定性的の二つの視点からAからDの四段階で評価しています。

また年に一回、外部有識者を交えて評価委員会を実施しています。本計画の実施状況に関して外部有識者の方からいただいた評価と指摘を元に、次年度以降の事業内容を改善します。

※1：評価基準の見方

<定量的>

A：100%以上 B：80%以上～100%未満 C：50%以上～80%未満 D：50%未満

<定性的>

A：大幅に達成 B：ほぼ達成 C：未達成 D：要検討



(1) 需要動向・経営分析

■目標数値と実績、判定

No	評価項目	単位	事業開始前 (H27年度)	H28年度	H29年度	H30年度		傾向 グラフ (実績)	最終評価(※1)	
			実績	実績	実績	目標	実績		定性	定量
1	各種統計データの情報収集	-	随時	随時	随時	随時	随時	-	B	B
2	ヒアリング調査	件	未実施	82	41	70→40	40		A	A
3	財務内容調査	件	未実施	91	102	90	95		A	A
4	アンケート調査	件	未実施	82	41	100→40	40		A	A
5	一次(内部)分析	件	未実施	154	134	80~100	135		A	A
6	消費者動向調査	人	未実施	541	222	170	796		A	A
7	企業動向調査	件	未実施	1	1	1	1		A	A

■成果、課題および次年度に向けての改善事項

No	評価項目	成果、課題及び次年度に向けての改善事項
1	各種統計データの情報収集	「小規模企業景気動向調査」「景気・金融・雇用動向調査」など、複数の調査を実施、結果の一部はホームページで公表を行った。
2	ヒアリング調査	調査内容を充実させ綿密な聞き取りを行うために、当初計画よりも調査件数を減らした。分析結果の情報共有が課題。
3	財務内容調査	商工会が会計データを保有する企業を対象に独自の分析シートを作成、比率分析とキャッシュフロー分析を行った。事業所へのフィードバックが課題。
4	アンケート調査	商工会未支援企業や事業承継の必要性が高い企業、経営状況は厳しいものの改善意欲のある企業に重点的に調査を行った。フォローアップが課題。
5	一次(内部)分析	135社を分析後、7社を抽出、次年度から事業計画策定支援を実施する。分析方法の統一とフィードバックの迅速化が課題。
6	消費者動向調査	展示会や祭事を活用し、目標を上回る調査件数を確保することができた。今後は調査結果をホームページだけでなく広報誌等でも公開していく。
7	企業動向調査	調査会社への委託を行わず、指導員が調査を実施した。本調査の結果を活かした個社支援が今後の課題。

■外部有識者からの意見と事務局からの回答

No.	外部有識者の意見	事務局の回答
1	アンケートやヒアリング手法の詳細について教えて欲しい。	郵送および職員の聞き取りで実施、事業承継アンケートの公表時期は特に決めず、不定期に実施。ヒアリング調査は20項目で、1時間～1時間半程度の時間をかけて行われている。
2	財務内容調査は毎年同じ事業所に実施しているのか、何年分の財務内容を調査しているのか、これまで実施した述ベ件数は何社か。	基本的に同じ事業所に実施している。基準は、当会が確定申告の代行をおこなっており、かつ貸借対照表を作成している事業所。3年間の財務内容比較を行っており、述ベ件数は約100事業所となる。
3	調査結果のフィードバックによる事業所への効果は見られるか。	事業計画を紙に落とし込み提示することで、事業所の経営姿勢が改善され、商品開発や補助金申請、経営革新申請などに積極的に取り組む姿が見られるようになった。

(2) 創業・販路開拓

■目標数値と実績、判定

No	評価項目	単位	事業開始前 (H27年度)	H28年度	H29年度	H30年度		傾向 グラフ (実績)	最終評価(※1)	
			実績	実績	実績	目標	実績		定性	定量
8	創業事業計画策定支援	件	10	57	24	20	43		A	A
9	補助金事業計画策定支援	件	50	95	74	80	75		B	B
10	経営革新支援	件	14	8	20	18	28		A	A
11	創業塾参加	人	30	77	43	50	36		B	A
12	PRイベント来場者	人	1,500	2,500	5,000	2,500	6,000		A	A
13	IT関連講習会参加	人	10	56	1	20	20		A	A
14	糸島よかもん市場登録	件	26	18	14	-	-		-	-

■成果、課題および次年度に向けての改善事項





No	評価項目	成果、課題及び次年度に向けての改善事項
8	創業事業計画策定支援	窓口で20件、創業塾で23件の支援を行った。今後は創業希望者向けにITや販促、インバウンド対策など時事的かつ実践的な講義を実施する予定。
9	補助金事業計画策定支援	補助金申請策定支援を75件実施。また、事業計画策定セミナーを開催するとともに、各地区で開催された懇談会でも補助金事業について説明した。
10	経営革新支援	経営革新推薦事業所数は37社、うち申請までいたったのが27社であった。承認された事業者は融資制度や市の補助金制度へと繋げることができた。
11	創業塾参加	第1回は25名、第2回は11名が受講した。受講者のうち13名が開業。また、相談窓口対応は専門家分は4社、指導員が対応する常設窓口では60社の相談があった。
12	PRイベント来場者	糸島イルミネーション事業、女性部おもてなし交流事業、糸島Life Food&Craftフェアの運営に参画し、事業者の認知度向上やネットワーク形成を助けた。
13	IT関連講習会参加	Googleマイビジネス・動画活用セミナーに20名、キャッシュレス決済セミナーに79名が受講した。経営にITを活用するための情報提供は今後も行っていく。
14	糸島よかもん市場登録	H28より糸島市のよかもん市場運営事業が廃止となったため、本項目に関する活動は行っていない。

■外部有識者からの意見と事務局からの回答

No.	外部有識者の意見	事務局の回答
1	販路開拓支援は既存事業者、新規事業者どちらの開拓が主だったのか。糸島市商工会は他地域と比較しても販路開拓事業に熱心に取り組んでいると評価する。	当会の販路開拓支援を通じて、新商品の製造はしたものの販売策の開拓ができていなかった事業所にPRイベントに参加してもらい、それをきっかけに展示会・商談会等に積極的に出席、販路開拓に繋がった例がある。これは既存の事例だが、イベントによる新規のマッチングも発生している。
2	キャッシュレスというタイムリーなテーマを選定しており、受講者も多かったようだ。糸島市も力を入れているので、今後も共同でキャッシュレス関連の取り組みを継続して欲しい。	増税前の実施であったことや、決済業者も好条件を提示していることなども事業者の興味を引くことができた要因だと考えている。

(3) 事業計画策定・実施支援

■目標数値と実績、判定

No	評価項目	単位	事業開始前 (H27年度)	H28年度	H29年度	H30年度		傾向 グラフ (実績)	最終評価(※1)	
			実績	実績	実績	目標	実績		定性	定量
15	経営革新計画 フォローアップ指導事業所	件	14	19	29	18	55		A	A
16	補助金事業計画 フォローアップ指導事業所	件	50	80	97	80	144		A	A
17	補助金費用対効果の 調査事業所	件	未実施	0	53	70	84		A	A
18	創業事業計画 フォローアップ指導事業所	件	10	57	24	20	43		A	A

■成果、課題および次年度に向けての改善事項

No	評価項目	成果、課題及び次年度に向けての改善事項
15	経営革新計画フォローアップ 指導事業所	平成28年度承認分8件、29年度19件、30年度28件の合計55件の指導を実施。進捗状況を確認し各種施策の紹介・活用に繋げた。フォローアップ内容の共有が課題。
16	補助金事業計画フォローアップ 指導事業所	過去に補助金申請を行った144件のフォローを行い、経営改善意欲が高まった。個別課題に対しては専門家派遣に繋げた。フォローアップ内容の共有が課題。
17	補助金費用対効果の調査事業所	昨年度に補助金申請した52社の調査を行い、事業の進捗状況を把握した。数値データの収集も行っているが、取得した情報の共有、経営カルテへの記載が課題。
18	創業事業計画フォローアップ 指導事業所	創業塾受講生のフォローアップ、常設窓口の設置、昨年の計画策定企業への追加支援を行った。パターン分けし詳細化した策定支援のメニュー作りを行っていく。

■外部有識者からの意見と事務局からの回答

No.	外部有識者の意見	事務局の回答
1	フォローアップの件数だけでなく、売上の増減した件数や売上動向なども把握するようやり方を見直して欲しい。	次年度以降に検討する。
2	29年度よりも実績値が向上しているが、これは29年度の課題が解決できたためだと考えて良いのか。	職員毎の巡回回数のばらつきなどはまだ改善していない。また、フォローを担当と異なる指導員が行うことも現時点では難しく改善されていない。フォローアップの記述簡略化は実行済みであり、これにより昨年よりは情報共有が進むようになったと思われる。

(4) 地域活性化・支援力向上支援

■目標数値と実績、判定

No	評価項目	単位	事業開始前 (H27年 度)	H28年度	H29年度	H30年度		傾向 グラフ (実績)	最終評価 (※1)	
			実績	実績	実績	目標	実績		定性	定量
19	イベントPR支援	回	3	5	26	5	19		A	A
20	商品券の販売	枚	16,586	16,890	23,709	19,000	39,094		A	A
21	支援力向上のための取り組み	-	-	C	B	-	B	-	B	A
22	経営指導員の資質向上	-	-	B	B	-	B	-	B	B
23	事業の評価および見直し	-	-	B	B	-	-	-	B	B

■成果、課題および次年度に向けての改善事項

No	評価項目	成果、課題及び次年度に向けての改善事項
19	イベントPR支援	地域・店舗・団体が行うイベントのPR支援を実施した。市と定期的な情報交換を行った。当会を利用したPR方法を今後も広く周知していく。
20	商品券の販売	糸島市と連携し、マイホーム取得奨励金として一般商品券35,115枚の発行を行った。本事業は令和4年度まで継続し、広報誌等での加盟店募集が今後の課題。
21	支援力向上のための取り組み	各種研修へ参加し、資料は内部で回覧し情報共有を図った。日本政策金融公庫と連携した「1日公庫」の開催、早良商工会との情報交換などを実施した。
22	経営指導員の資質向上	軽減税率・税制改正、報告・連絡・相談のセミナーをはじめ、中小企業大学校が主催する研修への派遣、OUTを意図した2人1組の指導体制の構築などを行った。
23	事業の評価および見直し	月2回の局長・指導員会議により、進捗情報の共有を行った。チーム全体で取り組めていない事業もあり、チーム内での情報共有やチェック体制整備が課題。

■外部有識者からの意見と事務局からの回答

No.	外部有識者の意見	事務局の回答
1	地元金融機関との連携が過去に課題として挙げられていたが、30年度はどのようなことをしたのか。	従来と同様、金融相談があれば紹介したり総代会などの案内をしているが、日本政策金融公庫と共同で実施している「1日公庫」のような綿密な取り組みはまだできていない。まずは情報交換からできればと考えている。
2	B評価が多いが、なぜか。何をクリアすればA評価になるのか。ベテラン職員が多いので、彼らの知識や情報の共有に力を入れて欲しい。	情報共有として研修資料等の回覧や会議の開催などは実施しているが、まだ勉強不足の面がある。また、資料の共有ができていない。今後、自由に研修資料を閲覧できるように資料の整理を行っていく予定である。

■平成 30 年度 発達支援計画全体を通じての外部有識者の評価

- ・ 5年の事業計画もあと2年となり、ボリュームもそうだが数値目標も高くなってきた。糸島市商工会は他の商工会と比較すれば職員数は多いが、それでもこの業務量を捌くのは大変だと感じる。数値目標も大事ではあるが、第一義には事業所の支援が目的であり、事業計画の実施にもメリハリをつけて、より効果の高い活動を行って欲しい。
- ・ 糸島市商工会の経営発達支援事業の取り組みと成果は素晴らしいと思う。限られたマンパワーのなかで努力と工夫を行い、きっちり成果を出している。あと2年、まだまだ伸びる余地はあるのではないか。
- ・ 事業活動にも慣れてきており、内容も十分、数値目標も達成し実績を残してきている。他地域と比較しても、経営改善の面でも地域振興の面でもバランスの取れた支援を行っていると感じる。このまま頑張ってください。

■経営発達支援計画 事業評価委員会

日時：

(最終) 平成 31 年 3 月 5 日 (火) 15 時 00 分～17 時 00 分

場所： 糸島市商工会 本所 智識倶楽部

委員：(敬称略、順不同)

会社・組織名	役職	氏名
株式会社フロウシンク	代表取締役/中小企業診断士	米倉 博彦 (委員長)
糸島市商工会	会長	大館 照光
株式会社日本政策金融公庫	融資第二課長	竹内 亮
糸島市	産業振興部 水産商工課 課長	川上 重則
福岡県商工会連合会	企画室 室長	大原 慎児

以上